

《埼玉協同病院だより》

ふれあい

2014年 No.317

発行：埼玉協同病院

〒333-0831 川口市木曾呂1317

Tel.048-296-4771

Fax.048-296-7182

ホームページ：http://www.kyoudou-hp.com

3

臨床研修評価の認定更新の 取り組みについて

当院は2013年12月3日に、NPO法人卒後臨床研修評価機構 略称JCEP (Japan Council for Evaluation of Postgraduate Clinical Training) による訪問調査を受けました。JCEPは、国民に対する医療の質の改善と向上をめざすため、臨床研修病院における研修プログラムの評価や研修状況の評価を行い、臨床研修病院のプログラムの改善、よい医師の養成に寄与することを目的とした第三者機関です。現



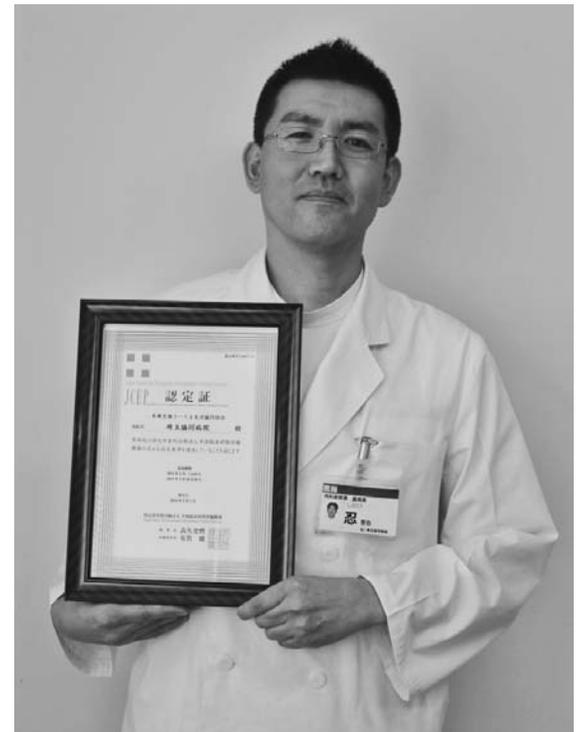
認定更新の修了証を受けとる増田院長

在、143の臨床研修病院がJCEPの認定病院となっています。

2010年1月に初回の審査を受けて、認定期間4年の認定を受けました。今回の更新審査にあたり、①医療の質向上をはかる、②患者様にとって良い医師の育成、③初期研修医が集まる病院づくりのステップとすることを改善の目標として取り組みました。

これまでも、研修医の診療については、指導医が内容を確認していました。さらに、指導医や他の職種が研修医に診療内容のアドバイスを行い、患者様にとって適切な診療ができるようにしてきました。また、指導レベルの向上を目的に指導医評価を定期的実施することになりました。

審査の講評で、「地域密着の医療をされていることがよくわかりました。いろいろな部門がよく研修医に関わっています。研修医インタビューでもそれが確認できました。充実した研修ができていると思います。良いという評判が伝わ



受審責任者の忍哲也医局長

らない限り、次の研修医は来てくれません。病院や研修の特徴を打ち出していくことで若い人が集まると思います」というコメントをいただきました。先日JCEPより、認定期間4年の更新を認定するという受審結果が届きました。よい医師の養成のために、医療の質を高め、医師が集まる病院づくりをすすめていきたいと思えます。(医局長 忍 哲也)

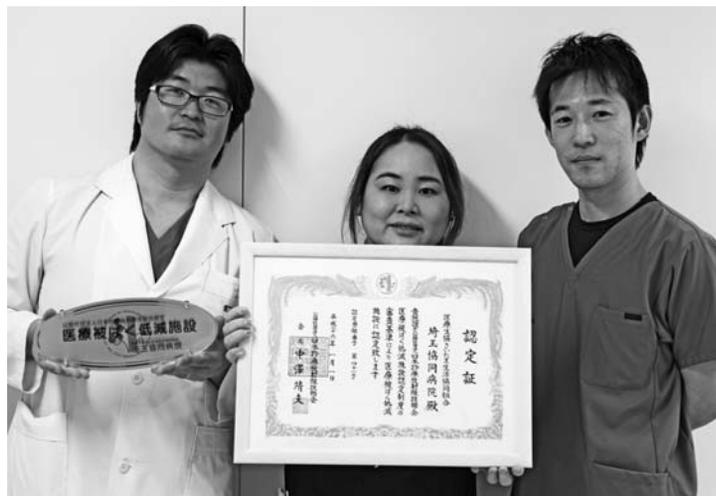
患者様の不安を減らすために 医療被ばく低減施設認定を取得しました

2013年12月、当院は『医療被ばく低減施設認定』を取得しました。全国で41番目の認定施設です。

医療被ばく低減施設認定とは、公益社団法人日本診療放射線技師会が2005年より行っている事業で、医療被ばくの適正化を実施している施設を認定するものです。

実際には、データの収集(各検査・撮影部位・年齢などによって、どのくらいの線量を浴びるのかを装置ごとに算出)や資料作成(患者様向けのパンフレットやポスターなど)を行いました。また、職員への教育も放射線管理士(放射線管理の国際資格:当院に2名在籍)が定期的に行い、患者様への説明が一定レベルに保たれるよう努めております。

医療被ばく低減施設認定の取り組みの中で、新たに整備したのが被曝相談窓口です。放射線



医療被ばく低減施設認定チームの診療放射線技師

検査に対する不安や疑問を患者様がいつでも相談できるように開設しました。1週間ほど時間をいただきますが、相談者が実際に受けた検査履歴から、具体的な被ばく線量の算出も行うこともでき、不安要素に対してこまやかなケアができるようになりました。

放射線に対する国民の関心が高い今日だからこそ、私たち診療放射線技師は患者様・利用者、放射線検査に関する内容開示や被ばく線量の情報提供を行って、検査を受ける一人一人の不安が少しでも減るように尽力していきたいと思えます。(放射線画像診断科 酒井晶子)

整形外科からの お知らせ

3月1日(土)より土曜日の整形外科外来は完全予約制となります。

3月1日より、整形外科は土曜日の診療を、当日受付を中止し完全予約制とさせていただきます。患者様にはご不便・ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

(整形外科外来)

「マイかるて」が ベストプラクティス 最優秀賞受賞!

2013年11月23~24日、医療の質・安全学会の第8回学術集会在「チームで良くする医療の質、質を支える安全学」をテーマに、東京ビッグサイトにおいて開催されました。その活動報告の部門で「患者・医療者のパートナーシップを高める「マイかるて」(患者閲覧用電子カルテ)の取り組み」を発表し、標記の賞に選ばれました。

医療の質・安全学会は2005年に設立された比較的新しい学会です。医療事故をめぐる報道やそれに対する医療機関の対応などをめぐり、

医療への信頼が大きく揺らぎ、医療の質と安全のあり方が問われる社会状況の中で、「広く英知を結集して医療の質・安全の向上に資する科学的・実践的な研究を推進し(中略)患者様本位の質と安全を提供する新しいシステム

のあり方を実現する」ことを目的として設立されたものです。具体的には、医療安全のための行動目標を掲げて全国で一斉に取り組む「医療安全全国共同行動」(当院も参加)や、医療者・患者・市民が協働するさまざまな取り組みを「新しい医療のかたち」賞として表彰し紹介するなど行っています。

会員数は2500名ほどですが、学術集会には会員数を超える参加があります。当院の「マイかるて」は、その中で、「患者様本位の医療の質・安全を提供する新しいシステム」として評価された

ものと自負しています。まだまだ改善が必要ですが、ぜひ活用し、さらに良いものに育てていながら、患者様が主体の良い医療を進めていきたいと思ひます。

医療の質・安全学会のサイトは健康ら いぶらりの情報タッチパネルでも、役立つサイトで紹介しています。以下は学会ホームページと学術集会のURLです。関心のある方はぜひアクセスしてみてください。

医療の質・安全学会
http://qsh.jp/index.htm
第8回学術集會
http://www.procomu.jp/qsh2013/



診療情報室長
野田 邦子

シリーズ 医療の質の改善 ⑨ 日常診療における学術研究活動

当院では、医療の質を定量的に測るための指標を300以上設定しています。測定値をもとに課題を明らかにして改善策を立てたり、実行したことが改善にむすびについているかどうかを確かめながら、継続的な改善を図るためです。今回は、学術研究活動についてです。

医療は日進月歩と言われます。常に新しい知見を学び、必要に応じてとりいれながら、社会に通用する医療水準を維持する努力が欠かせません。医師をはじめとする医療職がその専門性を高めるために必要な学ぶ環境を整え、学会等への参加や日常診療における学術研究活動を奨励しています。これらは、個々人のキャリアアップや成長にとどまるものではなく、組織医療としての質改善のサイクルに位置づけられ、組織医療の質向上に還元されるべきものです。日々の診療の結果をまとめ、ふりかえり、標準的な医療が安全に提供できているのか、納得していただける医療が提供できるように、診療デー

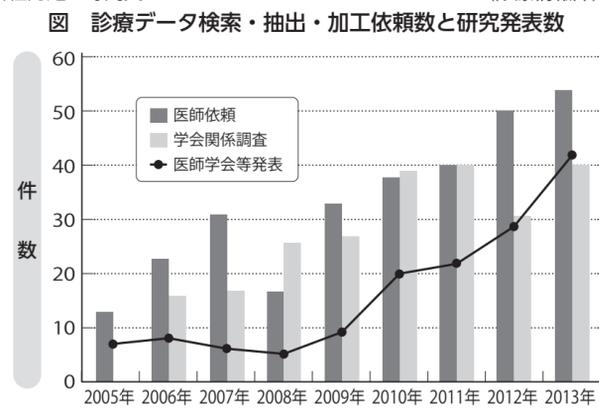
タを活用することは医学の発展にも重要なのです。

データの抽出や医療記録からの調査、加工、解析などの作業には多大な労力と時間が必要となります。診療情報室では、各種認定・専門資格の取得や維持に必要な症例検索や教育施設認定関連の症例データベースへの登録、院内感染サーベイランス(監視)や院内がん登録、手術症例登録などのほか、検索した情報の分析・加工などの支援を行っています。図は、2005年から2013年の診療情報室に依頼のあった、診療データ抽出・調査の依頼数と、学会または学術誌への研究発表数の推移です(医師分のみ)。依頼

数は、4倍強となり、学会等からの調査を含めると7倍と増えています。

教育研修センター SKYMET の設立(2011年3月)以後、さらに大きく伸びており、常勤医師の学会への参加率は87%となっています。

(診療情報部)



東日本大震災から3年目の春 希美ちゃん3歳になりました

2011年の東日本大震災で福島から避難し、当院でご出産された会田公美子さん、希美ちゃん親子のご自宅へ訪問しました。

3歳になる希美ちゃんは、今春から幼稚園に入園するそうです。お話が上手で、周囲の大人を終始笑顔にするくらい楽しませてくれます。イケメンのパパさんは大変なお仕事を継続し、新居を構えて頼もしい大黒柱となっています。

した。公美子さんは、出産時に知り合った方との交流も続いており、多くの友人と子育てを楽しんでいます。

訪問時には、公美子さんのご両親もいらして、近況を伺うこともできました。今年の冬は埼玉では記録的な大雪でしたが、福島では日常であったことを懐かしく話していました。



久しぶりにお会いした皆さんは3年前と変わらず笑顔いっぱい、元気と勇気をもらいました。

しかし、まだまだ、避難生活を続けている被災者がいることを忘れずに、私たち医療従事者ができる支援を続けて行きたいと思ひます。会田さん家族に会えたご縁を大切に、がんばっていこうと胸に誓いました。

(産婦人科助産師 高田 綾野)

第31次辺野古支援・連帯行動

全国の44名の仲間が参加

1月23日~25日までの3日間、全国の民医連の仲間総勢44名が沖縄に集まり、「やんばるの森」を米軍のヘリパッド建設から守り、「辺野古」の基地建設を阻止する住民の支援行動を行いました。

「やんばるの森」の隣には7,800haの米軍訓練場があります。この地域には既に15ヶ所のヘリパッドがあり、住民は常に爆音や墜落の危険にさらされています。更に、今回新たに集落を取り囲むように6ヶ所のヘリパッド建設が予定されており、一番近い民家では、わずか400mしか離れてなく、近くをヘリコプターが飛んでいるだけでも騒音ですが、

それが昼夜を問わず年間1,200回以上離着陸するという事です。国は工事に関する説明も無しに建設を始めようとしていました。現地では今も座り込み行動を続けていますが、このような米軍のための基地建設の費用は全て私達の税金で賄われています。

基地建設反対の闘争開始(座り込み開始)から3,568日目。このような現実があるとは今まで知らずに過ごしていました。今回初めて参加し、まず私達がやらなければならないことは「知ること」だと思ひました。

今後は現実を知り、多くの人達と意見を交わす必要があると思ひました。

(食養科 原田 敏次)



虹の投書箱 だより

予約済みの場合、再来受付機での受付は不要です

問 再診で来ました。診察券を受付機に入れたところ、動きません。傍らにいたボランティアさんに聞いたところ、予約をしていると診察券を入れなくて良いことがわかりました。予約電話の時に、その旨を言っていただけると、直接、診療科に行けるのと思いました。

答 この度は、ご案内が行き届かず申し訳ございませんでした。当院では、予約がある場合は、再来受付機に診察券を入れますと予約ありの表示がでます。予約券をお持ちの方も電話予約された方も、再来受付機での操作は不要となっております。直接、診療科にお越しください。各診療科や電話予約センターにおいて、皆様にわかりやすくご案内をいたします。
回答者：富樫 勝幸(外来医事課長)

SP(模擬患者)さん募集中!

当院のSP(模擬患者 simulated patientの略称)活動について紹介します。職員が模擬患者さんと、日常の診療場面から想定したシナリオにそって対応の練習をします。職員が、適切な話し方や態度について考え、身につけるための実践的な学習の機会になります。明日からの仕事に活かすことができ、患者様の満足度向上につながるかと考えています。

患者役を演じる組合員のみなさんにとっても、医療への積極的な参加をする機会となり「やりがいを感じます」という感想が寄せられています。毎月、第2水曜日の午後1時に院内で活動しています。随時、見学を受け付けております。ぜひ、お気軽にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ 外来医事課 小谷



模擬患者へ点滴の説明をする看護師

埼玉協同病院の 関連施設のご紹介 3 川口診療所



川口市仲町に開設して60年。先端医療を誰にも平等に提供したいという当初の思いが受け継がれております。別表の医師が最新の知識を日常臨床に駆使し、一般内科の他に専門外来も担っており、大学や関連機関で活躍している方々です。糖尿病診療では、栄養士による食事指導、看護部によるフットケア外来が活躍中です。漢方外来や禁煙外来もあります。訪問診

療では、さいわい診療所、浦和民主診療所、おおみや診療所および医師会の先生と連携し、緊急時には埼玉協同病院の援助を得て、24時間体制の在宅医療を行っています。更に、看護部のお悔やみ訪問も、死亡患者様ご家族の精神的なケアとして重要な役割を果たしています。何時までも地域に愛される診療所でありたいと考えております。
診療所長：内山 隆久



住所：〒332-0022
川口市仲町1-36
☎048-252-5512

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~12:15	○	○	○	○	○	○	—
午後 14:00~15:30	○	○	○	—	○	—	—

※月~金は夜間診療18:00~20:00(21:00までは医師待機)もあります。
※診療科によって曜日異なりますので、事前にご確認をお願いいたします。
【診療科】一般内科、循環器科(内山・今岡医師)、消化器科(加藤・永井医師)、漢方(滝沢医師)、糖尿病(平山・中村医師)
【休診日】木・土の午後、日・祝祭日

※「ふれあい」に掲載の開業医さんを受診される際は、受診前に必ず問い合わせをお願いします。



協子ちゃんの健康マメ知識

第147回

●プロトンピン時間●

今回はワーファリン内服をされている方に用いられている検査項目のプロトンピン時間(以下PT)について紹介します。

PTは、血液の凝固因子に関する指標の一つです。正常値は11~13秒とされています。

PTの短いものには病的なものは少なく、問題になるのは長くなるものです。凝固因子を産生しているのは肝臓で、肝硬変や肝炎などで肝臓の機能が著しく低下した場合、凝固因子の欠乏によってPTが長くなります。

また、ワーファリン内服している方はビタミンKの多く含まれる納豆などは摂取しないよう

にと指導されたことがあると思ひます。これはビタミンKを摂取すると、ワーファリンの作用を減弱させてしまうからです。

実は検査に用いる試薬が生物由来の製剤であるため、製造ロットや製造業者によって結果が違ってきます。この差を標準化するために考案されたものがINR(PT-INRとも表記されます)で、病院間での治療の差を少なくすることが出来ます。ワーファリンによる抗凝固療法のコントロール推奨値は一般にPT-INR=2.0~3.0とされています。高齢者など出血の合併症の恐れがあるときにはPT-INR=1.6~2.6とする事とされています。

